

編輯後記

六字庵 怠佛

竹本鍛大夫斃れて其の土未だ乾かざるに豊竹駒大夫倏忽として逝く、駒の告別式に列し其の歸路竹本土佐大夫の急逝傳はる。何と匆忙急緊なる陽春にあらずや。

浪花節は有爲多望の技藝家が輩出し、女流には雲月といふ偉人あり。蓋し浪花節は自由奔放おのゝ一家を形造つて居るも。淨瑠璃には典型乃ち約束に縛られて驥足を延ばし發展する餘地を與へて居ない。守勢に汲々齟齬として寧日なしてふ現状。此の奇妙きてれつの態制下に鍛、駒、土佐等の產出した事は不可思議千萬といふてよろしい。

女義の泰斗竹本東廣が黄泉の客となつた事も惜むべきであるが、凡そ人生誰彼の差別なく、遅かれ疾かれ、死の襲來を免がる者なく、後藤伯の玄關番を振出しに竹本大隅大夫に入門し、一座の庵となり。花やかなる舞臺生活を千秋萬歳と閉ぢ、七十九歳の長壽を保ち、而も藝術三昧に入り愛弟子伊達が駒の死後を受持つて登床するため新口村の稽古をつけて倒れたる事残念と云へば残念なれど武夫の戦死に劣らぬ名譽である。鍛や駒にありては惜しき年にはあらざるも、尙ほ養生次第五年七年の壽命は保ち得たであらう可惜。

素義の棟梁三木魚勢君長逝す、悼むべし惜むべし。

竹本津大夫の重態が傳はる。蓋し津は豊前香春より出で藝道修行實に六十年。大夫の最高文樂座紋下となる。茲に津の功罪を論議する必要なく斯道寂寥の折も折、切に恢復を禱る

三昧線界は尙ほ豊澤新左衛、鶴澤友次郎、鶴澤叶、野澤吉彌、野澤吉兵衛、鶴澤綱造、鶴澤道八、鶴澤清六、豊澤助、野澤勝平、野澤吉五郎、鶴澤寛治郎、鶴澤重造、鶴澤友造、鶴澤友衛門、豊澤猿糸、野澤八造、竹澤團六等が數へられて居る。

女大夫にては竹本小仙、豊竹團司、豊竹昇之助、豊竹呂之助、竹本綱龍、竹本三蝶、竹本染登、竹本清絲、竹本春華、竹本雛朝。三昧線小住、仙平、東重、綱助、東歌等がある。

以上は孰れも日本的に指名されてある様に見える。

天にも地にも唯獨り光つて居る豊竹古靱大夫の次に大隅、文字、織、相生、呂、和泉、長尾等ありと雖も御大古靱を輔けて昭和淨瑠璃萬葉の春は果して何れの日に來るべき歟。思へば覺束なき我が命なる哉。

國民學校教科書の誤謬に對する當局の意思と。淨瑠璃語本の誤謬に對して淨瑠璃家の持する意思は同一で餘り微細の點まで詮議するを嫌ふとある。實に驚き入つた。これでは教育の成果があらがない。と絶望した。淨瑠璃が世態と離れ行きて新人に顧みられなくなり、浪花節の流行蔓延に應酬し得ざるも成程無理ならず、残念なる哉。

新淨瑠璃と新人物の養成、これが焦眉の急と思ふ。淨瑠璃協會の責任にかけて實行を希ふ。我等の筆は既にちび、聲も亦かれた。淨瑠璃は日と共に衰へ行く、此の状態を何と見る